

防災無線システム整備事業に関する住民説明会での意見・質問内容

吉田会場（日時：10月6日 19時00分～ 会場：生涯学習交流館）

参加者数：22人

Q 戸別受信機は自治会の集会所等にも配付するのか？

A 現時点において、交流センターなどの公共施設に配付する方針。自治会の集会施設等への配付については、市民の皆様からの意見等を踏まえ、今後検討したい。

加茂会場（日時：10月8日 19時00分～ 会場：加茂文化ホールラメール）

参加者数：65人

Q 屋外スピーカー、戸別受信機とも耳で情報を得てもらう方法だが、耳の不自由な方はどのように防災情報を得たらよいのか？

A 耳の不自由な方への対応は、文字表示機能を備えた戸別受信機を配付する。

Q 現在、火災発生時には音声告知放送で市内全域に情報が流れるが、防災無線では該当の地域のみで流れるようにならないか？

A 現在、雲南消防本部から音声告知放送で市内一斉に火災発生放送が流されている。火災発生情報は、市民の皆様にお知らせすべき緊急情報であるとの判断から、防災無線整備後においても市内一斉に周知したいと考えているが、市民の皆様からの意見を踏まえつつ、運用の詳細については今後検討したい。

Q 屋外スピーカーについて、見通しの良い所に標準型を、周辺の谷部などに高性能型を設置することが望ましいと思うが如何か？

A 屋外スピーカーからの音声が届く範囲には、山などの障害物の有無によって変動が生じる。障害物の多い地域に高性能スピーカーを設置しても、その性能を十分に活かすことができないため、高性能スピーカーは障害物の少ない平坦部に設置することで広いエリアをカバーすることとしている。また、スピーカーの設置位置及びスピーカーの種類の選定については、専門事業者による音声の伝播範囲の検証を踏まえて設定している。

Q 防災無線は地域自主組織のエリアだけで放送することは可能か？

A 防災無線導入当初においては、市全体及び町単位での運用をする方針。防災無線システムでも放送区域の設定が可能であるため、市民の皆様からの意見をいただきながら検討していく。

掛合会場（日時：10月13日 19時00分～ 会場：掛合体育館）

参加者数：65人

- Q 戸別受信機を追加で貸与してもらうことは可能か？
可能な場合、負担はどの程度必要か？
- A 戸別受信機の2台目以降の貸与については有償とする方針である。負担いただく額については、実費（全額）負担とするのか、一部を負担していただくのか、現在検討中であり、後日お示ししたい。
- Q 市からの防災情報などを発信している「安全安心メール」に登録しているが、この安全安心メールと防災無線の連携はどうか？
- A 防災無線からは、市から発信する防災に関する情報を音声等にて市民の皆さんにお伝えする方針であるが、これまでの安全安心メールや防災アプリ等とも連携させるなど、様々な手段を活用しながら防災情報を発信していく。
- Q 集会所への戸別受信機の配付をお願いしたい。
また、事業所への配付は可能か？
- A 集会所への戸別受信機配付については検討中である。集会所は常時人がいる施設ではないことや、戸別受信機は持ち運びが可能であることなども考慮した上で判断する方針。
また、事業所については、戸別受信機の設置を希望される事業所等に対し有償で配付する方針である。
- Q 配布資料に質問の締め切りが9月23日までと記載してある。説明会を踏まえて、新たに質問が生じる可能性があるため、電話等でも受け付けてはどうか？
- A 説明会で使用した資料は市報9月号で全戸配布しており、住民説明会に向けて質問を事前に集約する目的で締め切りを記載していた。質問等については、随時電話等で受け付けるので、ご不明な点などあれば問い合わせ願いたい。

木次会場（日時：10月20日 19時00分～ 会場：木次体育館）

参加者数：100人

- Q 防災無線を運用する際、サイレンを鳴らした後に避難情報などの防災情報を流してはどうか？
- A 防災無線からもサイレン（電子音）やチャイムなどの音を鳴らせる仕様となっている。運用の詳細については、市民の皆さんからの意見を踏まえながら検討していく。

Q 防災無線整備には多大なコストを要すると思われるが、市単独でシステムを整備するのか？

近隣の自治体などと連携したシステム整備も可能と思われるが、県内他市町の防災無線システムの整備状況は？

A 他自治体の防災無線の整備状況については、従来のアナログ無線も含めて全国の約8割の市町村が整備している状況。旧町においては三刀屋町のみがアナログ防災無線（60MHz）を整備していたが、今回、市全域でデジタル防災無線を整備していく方針。

市内全域での防災無線整備を検討するにあたり、三刀屋町に導入していたものをデジタル化し、市内全域にエリアを拡大することを検討したが、整備に50億円以上の経費が必要と見込まれたため、他の方法を検討してきた経過がある。

今回整備する防災無線は、280MHzの周波数帯を使用したシステムとなるが、従来の防災無線に比較した場合、約4分の1から5分の1の経費で市内全域に無線電波を届けることができる。

Q 通信システムは携帯電話会社など数多くあるが、他の市町村の防災無線は独自のシステムを運営しているのか。それとも大手通信会社のネットワークを活用したものなのか？

A 防災無線は各自治体で取り組んでおり、独自のものもあれば、旧来からの防災行政無線（60MHz）を使用している自治体もある。奥出雲町、飯南町は従来の防災行政無線を活用されている。雲南市は280MHzの周波数帯を使用した防災無線システムを導入するが、出雲市も同じシステムの導入を進められている。

Q 防災情報以外のお知らせはケーブルテレビの音声告知放送を活用するとのことだが、停電時はどうなるのか？

A 停電時等の緊急時にはケーブルテレビの音声告知放送の回線が使用できない状況も想定されるので、そのような場合には、緊急的に防災無線を通じて情報発信するなど、有効に活用していく。

大東会場（日時：10月22日 19時00分～ 会場：大東公園体育館）

参加者数：141人

Q 地震などの際には停電になることがあるが、防災無線は大丈夫か？

A 屋外スピーカーには停電用に内部電源をもうけているため、停電しても3日間程度は稼働する。戸別受信機も停電時には電池に切り替わる。

Q 聴覚障がい者にはスピーカーからの音声は聞こえない。文字放送だけではわからないため、戸別受信機に発光する機能があると良いが？

A 戸別受信機は、緊急情報が流れるときには赤ランプが点滅してお知らせする。

Q 事業所には戸別受信機を有償で配付するとのことだが、金額はどの程度か？

A 事業所への戸別受信機の有償配付の金額について、戸別受信機本体の価格は約18,000円/台だが、全額（実費）負担とするのか、一部の負担とするのか現在検討を行っている。決定次第、お知らせしたい。

三刀屋会場（日時：10月29日 19時00分～ 会場：三刀屋文化体育館アスパル）

参加者数：94人

Q 戸別受信機の貸与についての申請方法等はどのようになるか？

A 書類による申請を予定しているが、申請方法等の詳細は検討中であるため、後日、市報等で周知をさせていただく。

Q 戸別受信機の配付は令和3年4月からなのに、防災無線の運用開始が半年後の10月になるのは何故か？

A 無償貸与の対象世帯数が約13,700戸あるため、配付自体に一定の期間を有することが見込まれ、配付後の受信テスト等の期間も考慮しているためである。順調に進めば、運用開始を10月から前倒しすることも想定している。

Q 鉄筋コンクリートの建物の中でも電波は届くのか？

A 今回整備する防災無線システムは、280MHzの周波数帯の電波を使用するが、この周波数帯はポケットベルで使用されていたもので、到達性と建物浸透性が比較的高いことから、窓際に戸別受信機を設置してあれば鉄筋コンクリートの建物内にも電波は届くと想定している。もし、受信できない事例が生じた場合には、別に屋内アンテナを設置するなどの対応策を検討している。

Q 事業所で戸別受信機を設置する場合は有償となっているが、費用はどの程度必要か？

A 事業所への戸別受信機の有償配付の金額について、戸別受信機本体の価格は約18,000円/台だが、全額（実費）負担とするのか、一部の負担とするのか現在検討中である。決定次第、お知らせしたい。

Q 配布資料に事業所への戸別受信機の配付スケジュールの記載がないが、どのような予定になっているか？

A 戸別受信機は、全世帯への配付を先行して進めることとしている。事業所への配付については、来年度において希望調査を実施する予定である。

Q 防災無線整備によって、パソコンやスマートフォン、Wi-Fi 等の通信機器への影響が生じないか？

A 280MHz の周波数帯の電波はこれまでも使用されてきたものであり、他の通信機器への影響はないと考えている。今回導入する防災無線システムは、全国で 30 以上の自治体が導入しているが、電波障害等が発生したとの報告はないと聞いている。

Q 防災無線の整備によって、既存の音声告知放送の機器は不要となるのか？

A 防災無線の整備後には、基本的に防災無線からは「市からの防災に関する情報」を放送する方針。防災情報以外の市からのお知らせについては、これまでどおりケーブルテレビの音声告知放送等を活用するため、既存の音声告知放送の機器も継続して使用することになる。

Q 屋外スピーカーからの音声は 300 メートルしか届かないが、モーターサイレンはもっと音が届くため、廃止しない方が良いと思うが？

A モーターサイレンは、設置から一定の年数が経過し、老朽化による維持管理が課題となってきている。防災無線の整備後にはその機能を集約し、運用方法の統一を図っていく方針。町によって異なるモーターサイレンの運用状況を踏まえつつ、調整していきたい。

Q 戸別受信機を自治会の集会所にも必ず配付してほしい。

A 集会所への戸別受信機の配付については、他の町でも要望をいただいている。現時点において配付の対象とはしていないが検討させていただきたい。